

和朝

今昔物語

卷之
世俗部



今昔物語部六目錄

○世俗傳

一 平維茂郎等被殺語

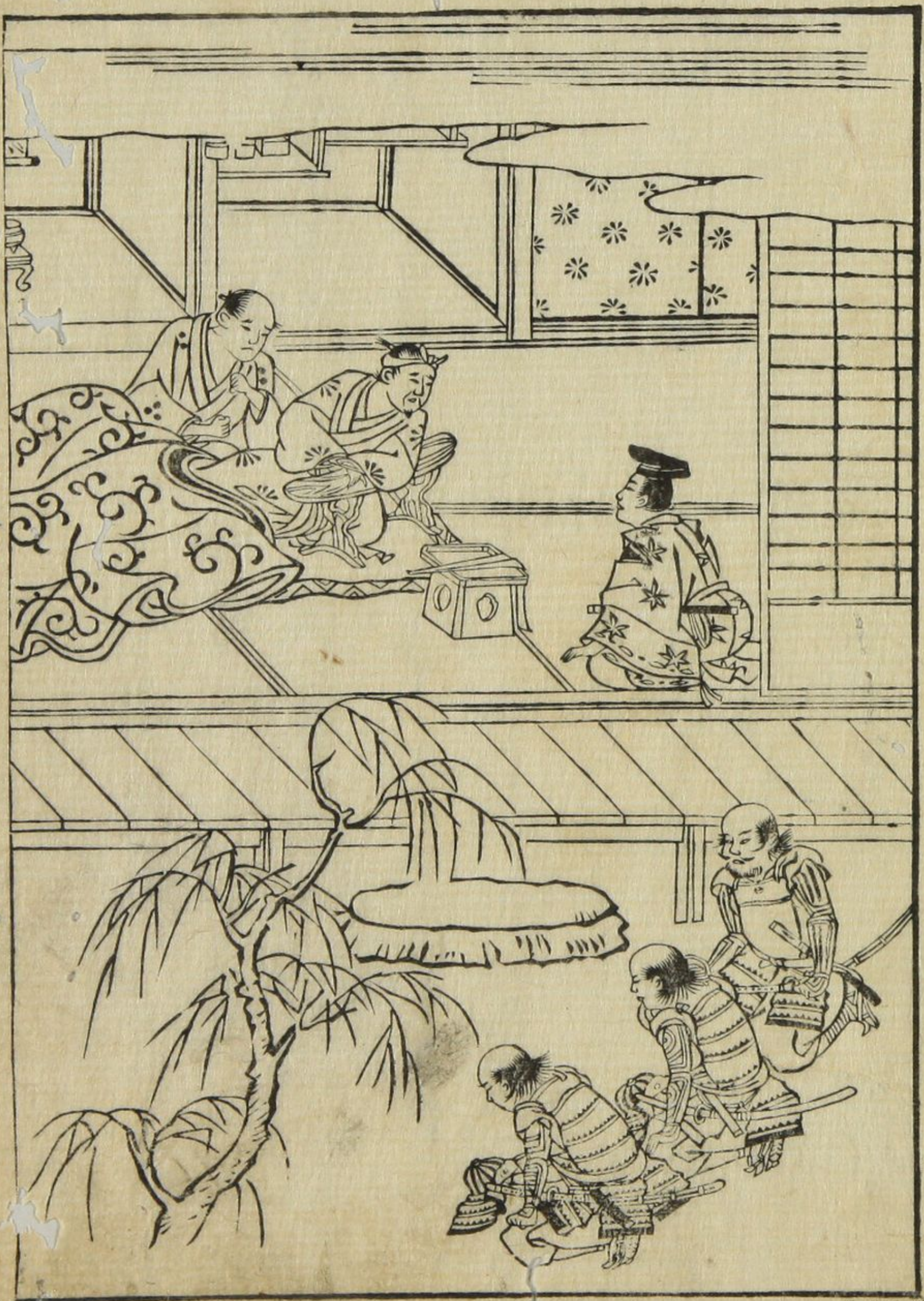
二 維茂討藤原諸任語

三 平貞盛欲害醫師語



今昔物語部六目錄
一 平維茂郎等被殺語

腰刀のさしたるに、
 女が膝宿よひて。家人多し。合物と持て、
 さりげなき袴にて内より。お敷をもらして、
 ぬきとされ。天道も、
 一ち給へ。新念して。人志づまる。
 多敷を多女をうらぐ。長途を志の。酒をばと
 ごいぬ。おねも。喉をうらた。
 ころり。おあきて。後女。



あつ。親の歎ふつてこの例ゆかり。やむを得ず。げ男を
一人して。さうざうりれ。敵人を。隙を。ほむ。なる。中。に。入。る。
ふ。や。す。く。討。得。ら。る。い。ま。ま。よ。天。道。の。ゆ。り。後。に。故。を。り。と
腹。も。り。や。わ。ん。か。ら。り。け。さ。え。さ。う。さ。也

二 平維茂討藤原諸任語

今いし。實方中將 正四位下陸奥守定時男 陸奥守にありて
さ。ま。よ。ら。ざ。う。ら。る。ふ。な。ん。ご。れ。さ。公。達。され。ば。國。内。の。者
と。も。び。守。公。答。意。して。昼。夜。館。の。ま。は。は。れ。さ。る。事。な
ら。と。ら。其。以。同。由。よ。平。維。茂。と。う。さ。考。あり。是。ハ。丹。波。守
平。貞。盛。才。武。苑。守。船。長。盛。子。と。平。維。茂。の。子。孫。也。が。嫡。子

かり。貞盛と云ふ子細ありて。甥の男の子孫ありて

考ふに志ありて。維茂の執中兼ありたり。されば。ず。あ。あ
い。さ。さ。ま。ら。い。な。れ。ば。字。公。餘。五。君。と。い。ま。る。一。書。曰。貞

盛。餐。盛。子。曰。兼。忠。乃。是。維。茂。父。也。天。慶。年。中。貞。盛。與。藤。原。秀。卿。誅
戮。凶。賊。平。將。門。功。名。蓋。世。任。陸。奥。守。兼。鎮。守。府。將。軍。以。甲。東。方
而。揮。旗。類。勇。敢。者。養。之。為。義。子。以。序。其。齒。有。太。郎。次。郎。以。下。至
十。郎。之。行。而。復。叙。其。餘。維。茂。生。而。剛。勇。也。然。年。弱。當。第。十五。故
名。之。曰。餘。五。郎。貞。盛。卒。後。留。時。後。原。法。任。と。い。ま。る。の。あり。

是ハ田原義孝考卿といひたる。兵の孫なり。字公餘。澤。勝
四郎といひたる。按大系圖。秀卿。干常。公脩。兼光。頼行。兼行。師

然。秀。卿。者。貞。盛。同。時。之。人。也。維。茂。者。貞。盛。之。養。子。也。け。二。人。よ
以。此。考。之。以。澤。侯。為。秀。卿。五。代。之。孫。者。恐。非。正。説。け。二。人。よ
し。た。田。原。富。の。事。と。あ。ら。そ。い。て。お。の。守。に。う。つ。さ。え。さ。れ

ともいづまはしつところ一理あるは下むとて困りて
 ちうぶさ考ありけと。是罪とりつらうのてねんしある
 うらに國司三年といつて失く。藤實方長徳四年十一
 月十三日於任回卒去 其
 後のきまといつたどなり孫増よ成て合戦の用意を
 せり。雙方勝をほつり日給定めくいづまはしつと
 ありわんと物ありと。維茂が方への兵三千人計。法任
 が方へは千餘人計をいづ。法任大勢に敵しどく。先
 びたの戦とやありとて常陸へ拓く。維茂國て
 さいびを我へる向の志てん中でのどくてありあり
 わつらひあつる兵と志づく。程久くあつ

の用事あるあつては幸國はうつらり。澤勝かく
 とつとあつとて。志の維茂が館へ押寄る。比と十
 月朔日れ世附とつらふ。余五の居る館のまへ大さ
 かる池ありて。水鳥れ居る。あつとてけつて
 とつ音とけと。余五井とて高きなよびて。水をれ
 さつぐい款のよせつらつて。高き一人とんのま
 けり。瀬負馬へ鞍を櫓よのぞつとつとつと
 見せつらつら。高き降りて。南形よ軍士四ふ所
 み充後して。まよふて作とつ。余五これとつとつら
 びして伏殿とつとつ。兵士とつとつとつとつとつ

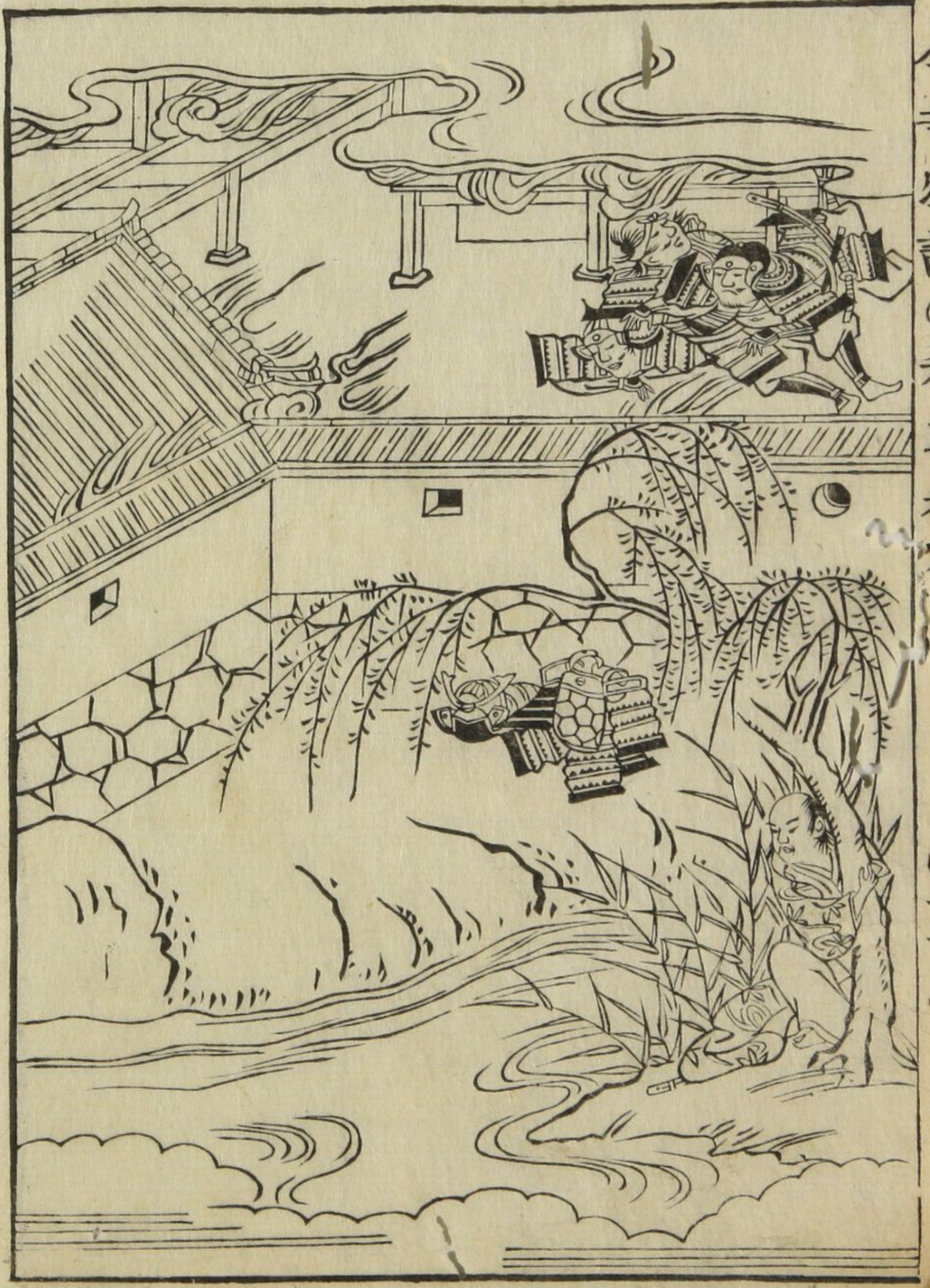
わんねい。運命うんめい今日けふのさしりまはるまじりども支度して
 一防ひつらんとて。款くわんのよせあるべし道了。四女騎つて橋を
 突つくゆきとせり。家内み側度負おる者。よ下うへに備びぎ
 ども。まづうせ人よいさごと。維茂今いまの千にてもせむべし
 中ちゆうりれとせりて。妻女つまめ 土佐守藤原孝陸女と幼こ兒ゑ滋定しじやう 左衛門太輔俊
五位下。系 因作。繁貞 人を流ながくとのよめわくけく。今いまのち中ちゆうに
 やけりまづりて下知げち。形かたち肯けんて働はたらくとども。まづりの
 人ひとおされい。おぼたなち瓜うりふせぐとくれえだ。一同いどうくま
 入いてあよ火ひをたきて焼やくくいのがま出でる者もの瓜うり一人ひとりも
 残のこさば射射しやしやたり。我われあけて火ひ流ながるれば。射殺しやころされ焼殺やころさ

までる死し骸がい八十餘人やそじゆにんをありて。いづまろ餘あま五ごあると引
 入いりくえれば。皆みなままは焼やく屈くりて種たねをたれば。物猫ものねこ
 どののがれどおしるれば。余あま五ごといげくはうもけん。定じやうま
 ばゆふぞありんと案堵あんどうして。も負お瓜うりふせぐけて帰かへりて。
大君 名。好則俊 五位下 子 守橋惟通 輔政 子 かまちり。まに長ながとて道みち瓜うり守まもるまろる級。
 一生いっしやう款くわんをちりて万人ばんにんは社しや請まねて有あり。以も勝かちが妻つまが
 兄あにちり。時ときく大君おほきみ會あひ勝かちて。一戦いっせんは勝利かちとほまひ
 しい。いみまき事ことちり。まろれば。彼かれちりの悪あくを乃の瓜うり。
 あよこちちがけりて。いみしい無ながる候うけちり。餘あま五ごが首くび

いふやうに石を鞍のそばに結付しつゝ中をいふば
 以勝がいとく。鳴陣れ事の上より君の屋よこ免あぐら
 であつりし。余五の鞍をめぐり下知してらん意で打めざり
 多きとくひけらぐお卯たれば逃る者一人もと見えず
 射外斬るを焼殺しつゝ者男女を少八十餘人あり。物
 猫だつてもいれど。余五もいれどいれど。何の扱よき
 ぢり焼首取取つていれど。お卯とくぐひ住りどと志
 王親よつゝ大君同てのいれどと志つらげよたさひ
 多し。さしども氣がたつた。余五が親と取ていれど
 生りやうらと。鞍乃とらんはまの結付しつゝ中をい

落居せよ。我の餘五が志をなすれがかくし也。そこ
 立しつゝ。飯酒と食をいれども。後より多しと志
 一。多し疾立ちつゝ。いれど。追えられ。以勝のいと
 か。こくねとす。氣がたつた。お卯とくぐひ住りどと志
 て。平くつら。珍ね東に。いれど。小川あり。馬よりゆり
 多し。山にやと。お卯とく。調度とて。長つら。大君が許よ
 つゝ大杉十。お卯とく。六。桶。鯉を。酢。塩。まで。ね。つら。い。と。
 徒任よつゝ。いれど。酒を。あ。て。あ。て。い。れ。ど。お。卯。と。く。ぐ。ひ。住。り。ど。と。志。
 たり。い。れ。ど。お。卯。と。く。ぐ。ひ。住。り。ど。と。志。つ。ら。い。と。空。腹。う
 酒。を。杯。で。飲。む。れ。い。れ。ど。お。卯。と。く。ぐ。ひ。住。り。ど。と。志。つ。ら。い。と。馬。の。背。に。お。卯。と。く。ぐ。ひ。住。り。ど。と。志。つ。ら。い。と。

今昔物語の和朝卷六



今昔物語の和朝卷六

六

それい何めりさむ。我流の薬のめは。さくもさう人ふと
つへ。炊飯女乃懐妊して六月よかり瓜引出させ。後と
割てるるの女子かりされ。打捨く又介して妊婦は
り。ち。腹と割て男子瓜は。素と相して病瓜念ひ。り。
此夜の報謝とて。醫師いよれたお薬米米錢たど多く
あてて後。た某門尉を呼て。我瘡乃兒干ひて人念るるを
を。け。醫師。披。露。さん。こ。う。ご。う。ひ。れ。ゆ。や。け。も。し。こ。と
ち。の。も。き。老。よ。ゆ。が。り。多。う。て。夷。と。志。づ。ち。よ。と。陸。奥
國。へ。つ。つ。い。され。かり。さ。る。ふ。人。を。お。さ。く。殺。し。り。と。父
え。い。の。怒。れ。多。う。お。ま。け。醫師。と。害。して。人。口。と。さ。い。

かんとさふかり。海道より行く事て。あるのが。このころ。さ
射。あ。と。ご。と。い。ふ。な。某。門。尉。い。て。や。と。た。某。と。作。向。う。の。が
らん。を。さ。め。う。れ。長。く。強。盗。乃。風。信。よ。も。て。わ。り。て。射。殺
し。作。さん。た。さ。り。う。あ。て。出。さ。せ。ま。づ。べ。し。其。用。意。は。ん
と。て。志。ま。さ。ゆ。い。ひ。そ。う。ふ。醫。師。よ。念。て。志。づ。く。お。某。瓜
又。が。尸。體。を。い。づ。ぐ。す。ま。さ。ゆ。い。ひ。に。醫。師。た。よ。ゆ。ら。う。あ。て
つ。あ。て。け。い。ひ。い。ま。い。て。多。う。け。て。さ。ぬ。り。る。だ。と。も。は。な。某
門。尉。が。い。ろ。く。よ。う。ま。や。た。ら。ら。と。わ。ら。う。け。つ。き。し。れ。り
判。官。代。を。こ。ん。の。ま。て。足。下。い。あ。り。て。越。え。人。び。ら。る。ぬ。る
の。は。も。世。り。つ。い。た。い。け。し。も。づ。お。か。り。ち。り。と。う。う。と。醫



師も必擧ぐ怪びあつて西河ぐらゐり出さうが。おれ
門射ぐさへけりやういふて。醫師馬より下て。後者乃
おとにちりて行きた。盗賊出まゝ。さういふ事て。判官代
をさぞといふ事いふて。一矢り射落しける。後者
は皆あびらりたり。醫師はけりぬく事いふ事。いふ事
方東門射の館より帰て。射殺したる由いふ事。いふ事。眞盛
よりいふて。居あつた。醫師はけりぬく事いふ事。判官代
ころこれいふ事。守りつて。方東門射をよびて。さういふ事
もさう事とて。同。方東門射醫師の歩を。後者の根
よていふ事とて。馬よりいふ事。いふ事。いふ事。

今昔物語(和) 卷六

判官代を射ころし仕わらむせむ守げあもらぞあらん
とついでそのいらあそいふばとて中いなり。貞盛即ち
乃媳婦れ服を割て。子ぬらんとていひ。其身は今も
ぬとけふる醫師を害さんとけりて。あやむを罪
ふらぬ人なりま。これい貞盛が一乃節名館法忠がし
とあはるるもなるが同つとて。おくはりゆえなる也

今昔物語六



